

令和5年度 学校評価 中間評価報告

石川県立錦城特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準 【B以上で達成、C・Dは工夫改善】	質問項目	中間集計結果	分析 (成果と課題)																																										
(1) 授業改善と専門性の向上	① <授業改善> 「特別支援学校における教科指導の充実事業」の継続を踏まえ、職員全員で学校研究を推進し、授業改善を行う。	研究推進課 全学部	研究授業実施に向けた一連のプロセスをとって教科の見方・考え方への理解が深まり、授業の工夫改善に取り組んだ職員の割合  A : a + b = 4項目以上が80%以上 B : a + b = 4項目以上が70%以上 C : a + b = 4項目以上が60%以上 D : a + b = 4項目以上が60%未満  <b>達成度判断基準</b> 5項目の質問に対し4項目以上aまたはbと回答した職員の割合が70%以上	【職員アンケート】5項目 ア. 研究会等を通して、児童生徒が働かせる(育てる)教科の見方・考え方を理解することができた。 イ. 研究会等を通して、深い学びを意識した手立てや支援・発問等について考えたり、意見を伝えたりした。 ウ. 研究会等を通して、深い学びにつながる授業づくりのプロセスを理解することができた。 エ. 普段の授業において、学習指導要領の目標・内容を意識し、教科の見方・考え方を働かせる場面を想定して授業づくりを行った。 オ. 普段の授業において児童生徒がその授業を通して学びとることを意識して問いを考え授業づくりを行った。	職員アンケートの「とてもできた・ややできた」項目数の割合 a とてもできた b ややできた c あまりできなかった d 全くできなかった  ① a または b の回答が5項目 ② a または b の回答が4項目 ③ a または b の回答が3項目 ④ a または b の回答が2項目以下  達成度の割合(単位%) <table border="1" data-bbox="1339 670 1724 821"> <tr><th></th><th>小</th><th>中</th><th>高</th><th>分訪</th><th>全体</th></tr> <tr><td>①</td><td>58.3</td><td>87.5</td><td>75.0</td><td>0.0</td><td>60.0</td></tr> <tr><td>②</td><td>8.3</td><td>0.0</td><td>8.3</td><td>33.3</td><td>11.4</td></tr> <tr><td>③</td><td>16.7</td><td>12.5</td><td>16.7</td><td>33.3</td><td>20.0</td></tr> <tr><td>④</td><td>16.7</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td>33.3</td><td>8.6</td></tr> </table> <b>【結果】 B 「①+②」=71.4%</b>		小	中	高	分訪	全体	①	58.3	87.5	75.0	0.0	60.0	②	8.3	0.0	8.3	33.3	11.4	③	16.7	12.5	16.7	33.3	20.0	④	16.7	0.0	0.0	33.3	8.6	アンケートの結果、4項目以上達成した教員(①+②)の割合は、全体では71.4%となりB評価となった。各学部の達成度は小学部66.6%、中学部87.5%、高等部83.3%、分教室・訪問教育部33.3%であった。学部間に差は見られるが、その理由として分教室・在宅訪問教育部では感染症対策もあり、研究授業が実施できておらず、それに向けた研究会が他学部比べて少なかったことが挙げられる。 項目別に見ると、項目ア、イは80%を超え、研究会等を通して教科の見方・考え方を理解し、授業改善に取り組めたことがわかる。その他の項目については、いずれも70%台となり、後期の課題と考えられる。これまでの研究会での話し合い等を整理し、授業打ち合わせ等も利用して普段の授業において工夫・改善を進めていく。												
	小	中	高	分訪	全体																																											
①	58.3	87.5	75.0	0.0	60.0																																											
②	8.3	0.0	8.3	33.3	11.4																																											
③	16.7	12.5	16.7	33.3	20.0																																											
④	16.7	0.0	0.0	33.3	8.6																																											
	② <専門性の向上> 児童生徒の特性や能力に応じ、確かな学びに繋がる授業を展開する。「社会に開かれた教育課程」を目指し主な教育内容や目標等を明示する。	教務課	授業参観、学校公開等で授業内容に満足している保護者や関係機関職員の割合  A : a + b = 90%以上が5項目 B : a + b = 90%以上が4項目 C : a + b = 90%以上が3項目 D : a + b = 90%以上が2項目以下  <b>達成度判断基準</b> 5項目の質問に対しaまたはbと回答した保護者や関係機関職員の割合が90%以上の項目が4項目以上	【参観者アンケート】5項目 ア. 指導は児童生徒にとってわかりやすい。 イ. 児童生徒が落ち着いて学習できる環境や教材が用意されている。 ウ. 児童生徒が自分の気持ちや考えを表現している。 エ. 児童生徒が主体的に活動していた。 オ. 表示してある年間指導計画をご覧になり年間を通じて学習する内容や授業の目標がわかった。	参観者アンケートの4段階評価の割合 a とてもそう思う b そう思う c あまり思わない d 思わない e わからない  達成度の割合(単位%) <table border="1" data-bbox="1339 1204 1774 1380"> <tr><th></th><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th><th>e</th><th>a + b</th></tr> <tr><td>ア</td><td>52.6</td><td>43.4</td><td>1.3</td><td>1.3</td><td>1.3</td><td>96</td></tr> <tr><td>イ</td><td>52.6</td><td>42.1</td><td>1.3</td><td>1.3</td><td>2.6</td><td>94.7</td></tr> <tr><td>ウ</td><td>44.7</td><td>44.7</td><td>5.3</td><td>1.3</td><td>3.9</td><td>89.4</td></tr> <tr><td>エ</td><td>42.1</td><td>51.3</td><td>2.6</td><td>1.3</td><td>2.6</td><td>93.4</td></tr> <tr><td>オ</td><td>36.8</td><td>48.7</td><td>2.6</td><td>1.3</td><td>10.5</td><td>85.5</td></tr> </table> <b>【結果】 C 「a+b」90%以上が3項目</b>		a	b	c	d	e	a + b	ア	52.6	43.4	1.3	1.3	1.3	96	イ	52.6	42.1	1.3	1.3	2.6	94.7	ウ	44.7	44.7	5.3	1.3	3.9	89.4	エ	42.1	51.3	2.6	1.3	2.6	93.4	オ	36.8	48.7	2.6	1.3	10.5	85.5	前期は4月に保護者対象の授業参観、7月に保護者と放課後等デイサービスなどの関係機関を対象に学校公開を実施した。アンケートの結果は、項目ウとオが90%以上に達せずC評価となった。オの年間指導計画の表示については「表示してあるのを知らなかった」「見るのを忘れてしまった」という意見があった。今後は受付で年間指導計画の表示についての案内を掲示したり、公開授業担当者に参観者がわかりやすい場所に掲示してもらうように伝えたりして、掲示の周知を図りたい。また、ウについては、研究推進課と連携しながら児童生徒の気持ちや考えを引き出す授業作りに努めていく。
	a	b	c	d	e	a + b																																										
ア	52.6	43.4	1.3	1.3	1.3	96																																										
イ	52.6	42.1	1.3	1.3	2.6	94.7																																										
ウ	44.7	44.7	5.3	1.3	3.9	89.4																																										
エ	42.1	51.3	2.6	1.3	2.6	93.4																																										
オ	36.8	48.7	2.6	1.3	10.5	85.5																																										

	<p>③ &lt;ICTの活用&gt; 児童生徒の障害特性を踏まえたICTの活用を工夫し、深い学びに繋がる授業を実践する。</p>	<p>情報 支援課 全学部</p>	<p>1人1台タブレット端末を個別または集団学習で効果的な活用を目指した職員の割合</p> <p>A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満</p> <p><b>達成度判断基準</b> 授業でタブレット端末を使用し、効果的な活用を目指した職員の割合が、70%以上</p>	<p><b>【職員アンケート】2項目</b> ア. チーフを担当する授業でタブレット端末を使用した。 イ. (「毎回使用した」「時々使用した」と回答した職員が) タブレット端末の効果的な活用を目指した。</p>	<p>ア. チーフを担当する授業でタブレット端末を使用した職員の割合</p> <p>a 毎回使用した : 12.1% b 時々使用した : 66.6% c あまり使用しなかった : 18.3% d 全く使用しなかった : 3.0%</p> <p>イ. アでaまたはbと回答した職員のうち、効果的な活用を目指した職員の割合</p> <p>a 効果的な活用を目指した : 100% b 効果的な活用を目指さなかった : 0%</p> <p><b>【結果】 B 78.7%</b></p>	<p>授業でのタブレット端末の活用については、78.7%が「a 毎回/b 時々使った」と回答しており、そのうちの全員が効果的な活用を目指しB評価となった。授業でタブレット端末を「c あまり/d 全く使わなかった」と回答した21.3%の理由は、「使わなくても授業ができた」「体育で体を動かす時間を確保できない」といったものと「授業と関係ないアプリを開いてしまう」「時間になってもやめられない」といったものの大きく2つに分けられる。授業の目標達成の手立てとしては、これまでの授業にそのまま端末を取り入れるのではなく、端末を活用した授業を前提としたSociety5.0の授業づくりを考え、いく必要がある。経験やノウハウの少ない職員はこれまでの実践事例を参考に、活用を促していく。また、授業で使用する際のルールを学部全体で確認し、適切に使用できるように改善していく。</p>
<p>(2) キャリア教育の推進</p>	<p>① &lt;プログラムの活用&gt; 錦城版キャリア教育プログラム(改訂版)を活用しキャリア教育の教育実践を発信し、家庭との連携を図る。</p>	<p>進路 支援課 キャリア教育委員会 各担任</p>	<p>キャリア教育プログラムに基づいた具体的な教育実践を理解し、家庭等でも取り組んでいる保護者の割合</p> <p>A : a + b = 75%以上 B : a + b = 65%以上 C : a + b = 55%以上 D : a + b = 55%未満</p> <p><b>達成度判断基準</b> 家庭で取り組んでいる保護者の割合が65%以上</p>	<p><b>【保護者アンケート】1項目</b> ア. キャリア発達につながる具体的な内容について家庭で取り組んでいる。</p>	<p>ア. 具体的な内容の家庭での取り組みについて</p> <p>a 取り組んでいる : 5% b 少しずつ取り組んでいる : 50% c これから取り組もうと思っている : 18% d 取り組んでいない : 27%</p> <p><b>【結果】 C 「a+b」 = 55%</b></p>	<p>アンケートの回答があった保護者のうち、家庭で取り組んでいる方は全体の55%でC評価となった。家庭での取り組みの内容は家での手伝い、自分のできることを自分でする、予算内で買えるよう考えて買い物をするなどがあり、そのために、本人がやる気になるよう声掛けを意識しているなど工夫していることがうかがえた。一方取り組めなかった理由としては家庭生活の中で時間的余裕がないことや具体的にどのように取り組めばよいかわからない等の意見が見られることから、今後の懇談や通信等を通しての周知や、家庭と学校で共に考える取り組みを工夫していく必要があると考える。</p>

②	<p>&lt;進路支援の充実&gt; 保護者も交えた進路研修会等を継続しキャリア教育や進路支援の充実を図る。</p>	進路支援課	<p>キャリア教育や進路に関する研修会等の内容に満足している保護者・職員の割合</p> <p>A : a + b = 80%以上 B : a + b = 70%以上 C : a + b = 60%以上 D : a + b = 60%未満</p> <p><b>達成度判断基準</b> 進路に関する研修会等で内容に満足している保護者・教員の割合が70%以上</p>	<p>【保護者アンケート（参加者のみ）】 【職員アンケート】1項目</p> <p>ア. 前期就業体験実習報告会、進路研修会（卒業後の福祉サービス等の概要について）を通して取組や概要等が理解でき参考になった。</p>	<p>ア. 保護者アンケート</p> <p>a よく理解でき参考になった : 49% b 概ね理解でき参考になった : 41% c あまり理解できず参考にならなかった : 0% d 全く理解できず参考にならなかった : 10%</p> <p>【結果】 A「a + b」=90%</p> <p>ア. 職員アンケート</p> <p>a よく理解でき参考になった : 45% b 概ね理解でき参考になった : 55% c あまり理解できず参考にならなかった : 0% d 全く理解できず参考にならなかった : 0%</p> <p>【結果】 A「a + b」=100%</p>	<p>進路関係行事や進路研修会に参加したほとんどの保護者が、取組やサービスの概要等を理解でき、子どもの進路について考える時の参考になったと回答しA評価となった。反面、取組や概要等について理解できず参考にならなかったという方もいたため、今後は保護者のニーズを把握しニーズにあった研修会を企画していく。</p> <p>職員アンケートでは、全職員が、進路研修会を通して卒業後の福祉サービス等の概要について理解でき、参考になったと回答しA評価となった。特に就労アセスメントについての理解が深まったとの意見が多かった。毎年でなくてもよいが、制度について学ぶ研修会は大切であると考えている。</p>																																																		
③	<p>&lt;社会で生きる力の育成&gt; 学校間交流や居住地校交流合同学習、地域交流等をおとして、人間関係形成・社会形成能力の育成を目指す。</p>	各部各担任	<p>児童生徒一人一人が、自ら活動に参加したり交流相手と関わろうとしたりする姿が見られた割合</p> <p>A : a + b = 70%以上 B : a + b = 60%以上 C : a + b = 50%以上 D : a + b = 50%未満</p> <p><b>達成度判断基準</b> 交流等において自ら活動に参加し、相手と関わろうとしていた児童生徒の割合が60%以上</p>	<p>【職員アンケート】2項目</p> <p>ア. 学校間交流等において児童生徒が自ら活動に参加する姿が見られた。</p> <p>イ. 交流相手に関わろうとする姿が見られた。</p>	<p>ア. 自ら活動に参加する姿が「よく見られた」「見られた」児童生徒の割合</p> <p>a よく見られた b 見られた c あまり見られなかった d ほとんど見られなかった</p> <p>達成度の割合 (%)</p> <table border="1" data-bbox="1339 858 1774 1013"> <thead> <tr> <th></th> <th>小</th> <th>中</th> <th>高</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a</td> <td>0</td> <td>81.8</td> <td>55.6</td> <td>43.8</td> </tr> <tr> <td>b</td> <td>87.5</td> <td>18.2</td> <td>33.3</td> <td>48.4</td> </tr> <tr> <td>c</td> <td>12.5</td> <td>0</td> <td>11.1</td> <td>7.8</td> </tr> <tr> <td>d</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】 A「a + b」=92.2%</p> <p>イ. 交流相手に関わろうとする姿が「よく見られた」「見られた」児童生徒の割合</p> <p>達成度の割合 (%)</p> <table border="1" data-bbox="1339 1220 1774 1375"> <thead> <tr> <th></th> <th>小</th> <th>中</th> <th>高</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a</td> <td>0</td> <td>45.5</td> <td>38.9</td> <td>26.6</td> </tr> <tr> <td>b</td> <td>12.5</td> <td>54.5</td> <td>38.9</td> <td>34.4</td> </tr> <tr> <td>c</td> <td>79.2</td> <td>0</td> <td>22.2</td> <td>35.9</td> </tr> <tr> <td>d</td> <td>8.3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】 B「a + b」=61.0%</p>		小	中	高	全体	a	0	81.8	55.6	43.8	b	87.5	18.2	33.3	48.4	c	12.5	0	11.1	7.8	d	0	0	0	0		小	中	高	全体	a	0	45.5	38.9	26.6	b	12.5	54.5	38.9	34.4	c	79.2	0	22.2	35.9	d	8.3	0	0	3.1	<p>小学部の交流及び共同学習では、ほとんどの児童が自ら活動に参加することができた。しかし活動は相手と関わる場面が少ないゲーム内容だったため、積極的な関わりが少なかった。後期の実践では意図的に関わる場面を設けたり支援したりする。</p> <p>中学部は作業学習の体験やグループ分けなどで交流相手と関わる場面が多かったため関わりも多く見られたと考えられる。交流後には「楽しかった」という生徒の感想が多く聞かれた。</p> <p>高等部では、ゲームやよさこいでほとんどの生徒が相手と関わることでできていたが、訪問先の環境に慣れず活動に参加できなかった生徒も一部見られた。</p> <p>各部の学校間交流等での児童生徒の様子から学校全体としてはA及びB評価となった。交流相手と積極的に関われるよう活動内容を考慮することで、活発な交流及び共同学習が行われると考えられる。後期に向けて検討していきたい。</p>
	小	中	高	全体																																																				
a	0	81.8	55.6	43.8																																																				
b	87.5	18.2	33.3	48.4																																																				
c	12.5	0	11.1	7.8																																																				
d	0	0	0	0																																																				
	小	中	高	全体																																																				
a	0	45.5	38.9	26.6																																																				
b	12.5	54.5	38.9	34.4																																																				
c	79.2	0	22.2	35.9																																																				
d	8.3	0	0	3.1																																																				

<p>(3) 安心・安全な学校づくり</p>	<p>①</p>	<p>&lt;健康・安全・防災に関する教育活動の充実&gt; 健康・安全・防災に関する指導を授業や行事等において実践する。</p>	<p>指導課 保健課 各部</p>	<p>学校保健計画や学校安全計画の月別目標を基にした指導や話を各部で行った割合  A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満  <b>達成度判断基準</b> 月別目標を基にした指導や話をを行った割合が70%以上</p>	<p>【指導課、保健課職員アンケート】<b>1項目</b> ア. 学校保健計画、学校安全計画の月別目標を基に児童生徒に指導や話をを行った。</p>	<p>□指導課（実施○、未実施●）</p> <table border="1" data-bbox="1339 129 1693 280"> <thead> <tr> <th></th> <th>小</th> <th>中</th> <th>高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】A「12/12」100%</p> <p>□保健課（実施○、未実施●）</p> <table border="1" data-bbox="1339 501 1693 652"> <thead> <tr> <th></th> <th>小</th> <th>中</th> <th>高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】A「12/12」100%</p>		小	中	高	5月	○	○	○	6月	○	○	○	7月	○	○	○	9月	○	○	○		小	中	高	5月	○	○	○	6月	○	○	○	7月	○	○	○	9月	○	○	○	<p>□指導課 5月は全校集会の場で全児童生徒対象に、6・7・9月は各部で指導した。内容に応じて、映像など視覚的支援を取り入れ、わかりやすく月別目標を指導できた。このように指導課員が全体の場で指導することにより、他の職員も同様に、児童生徒に声かけする場面が明らかに多くなったと言える。職員が共通理解のもと、安全指導ができるようになっている。</p> <p>□保健課 学校保健計画目標の指導を5月は全校集会、6、7、9月は各部で児童生徒の実態に合わせ、パワーポイントを使用して行った。目標を達成するために「どうすればよい？」の質問に対して、自分なりに考えた意見を述べる生徒もあり、生徒自身が考える良い機会となっている。また、指導を行うことを通して職員が保健目標をより意識することにもつながっていると思われる。</p>
	小	中	高																																												
5月	○	○	○																																												
6月	○	○	○																																												
7月	○	○	○																																												
9月	○	○	○																																												
	小	中	高																																												
5月	○	○	○																																												
6月	○	○	○																																												
7月	○	○	○																																												
9月	○	○	○																																												
<p>(4) 業務の効率化の工夫</p>	<p>①</p>	<p>&lt;業務の平準化と環境改善&gt; 分掌業務のデジタル化を更に推進し、特定の時期や教員に集中しがちな業務を分担し協働的に働ける組織作りを目指す。</p>	<p>教頭 各課 全学部</p>	<p>各部・各課（計12部署）において業務のデジタル化や業務の偏りの平準化に努め協働的に業務を行うことで効率よく業務を行えた部・課の割合  A：10/12以上 B：8/12以上 C：6/12以上 D：4/12以下  <b>達成度判断基準</b> 効率化を図った部・課が8部署以上</p>	<p>【職員アンケート】<b>1項目</b> ア. 前期、業務の平準化またはデジタル化を行い、効率化を図った。</p>	<p>前期、業務の平準化、デジタル化を行い効率化を図った課、部 10部署  前期、業務の平準化、デジタル化を行わなかった課、部 2部署  【結果】A「10/12」</p>	<p>12の部署のうち10の部署において効率化を図ったという回答を得られA評価となった。ほとんどの部署において職員間の情報共有や連絡にTeams(掲示板アプリ)を使用している。また、8部署で資料のペーパーレス化を進めており、業務のICT化を進めていることがうかがえる。また、4部署では年度当初から業務の平準化を意識して仕事を割り振っているとの回答があった。 後期に実施できそうな効率化のアイデアを全職員に周知し、今後も業務の効率化とともに協働的に働ける組織づくりに努めていく。</p>																																								